

事務局だより

2001年3月18日、早稲田大学において、本学会の最大事業である第6回研究大会のシンポジウムは「21世紀のバレーボールの在り方を考える」というテーマのもと、3名のシンポジストを迎え活発な討論が行われました。本テーマは、企業スポーツ後退期の今日いったい何が問題なのか？そしてどこに向かうのか？・・・、また、その成り行きが注目される総合型地域スポーツクラブ構想の具体は何なのか？・・・、ジャーナリズムはそれらをどう捉えているのか？・・・、等の観点から設定されました。もちろん、これらのキーワードはバレーボール界に限らず今日の我が国のスポーツ界において今日的課題・関心事として各方面で取り上げられつつある、時局にあったテーマと言えるものと確信しております。事実、これら各方面において専門的に関わっている3名から話題提供を頂き、それに引き続いてフロアとの質疑応答が行われましたが、2時間という予定時間があっという間に過ぎてしまい、本学会会員の関心の高さを感じました。

また、本学会では年2回の研究集会を東京と地方で交互に開催し、会員の拡充と共に、研究大会よりもより実際の・身近なテーマを設定して、時にはセミナー的に開催しております。もちろんこの研究集会のテーマ設定に関しても、明石企画委員長を中心として機を得たテーマを如何に設定するか！というスタンスから知恵を出し合っております。

しかしながら、会員の興味・希望を満たす中で奇を衒ったテーマを設定するという作業は必ずしも容易ではなく、毎回苦心していることも事実です。第6回研究大会時にも参加者にはアンケートを実施し、要望や関心の事態を把握しようと努めてはおりますが、それでも会員全体の総意を汲むというまでには至っていないと自覚しております。

さらに、今回の研究大会における一般研究発表は7編で

した。しかし、会員が400名を越える学会としましては幾分発表数的には寂しさを感じざるを得ません。

このように、研究集会・大会のテーマの設定に関しましても会員各位の意見を集約するためには、やはりアンケートのみならず会員各位からの率直な御意見をお寄せいただくことが不可欠であり、この意味で会員各位の御協力を願ってやみません。

また、研究大会等での研究発表に関しましても、研究大会が盛大であるためにも、また、バレーボールに関する今日の研究の動向を確認するためにも、特に若手の新進気鋭会員の皆さんを中心としまして是非多くの会員による発表を期待しております。

我が国を取り巻く経済的問題や諸外国の国際的競技力のアップという日本のバレーボールというスポーツに関して決して順風満帆という状況ではない今日において、これらの苦境に少しでも風穴をあけ、それをきっかけとして更に我が国のバレーボールが少しでも前進するためには、我がバレーボール学会のような決して派手ではないが地道かつ確実な活動が必ずや貢献できるものと確信いたしております。

是非、会員の皆さまの「自分たちの学会！」という意識による屈託のない学会活動を期待して止みません。

最後になりましたが、本学会では既に御承知の通りに会費の納入方法を銀行や信用組合等の会員の口座からの自動引き落としに変更して3年目になります。これまで何回か機会を見てその手続きをお願いして参りましたが、手続き率は50%程度でしかございません。

つきましては、重ねて「預金口座振替依頼書」をお持ちの会員の皆さまには早急に事務局まで御返送くださいますようお願い申し上げます。

(2001.4.16.Toshi.)



第2回研究集会 於 愛知工業大学